

## Dan Isomura × Sareena Sattapon

Dan Isomura

1992年東京都生まれ。2016年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。

近年の主な展覧会に、2021年「アジア・アート・ビエンナーレ2021」（国立台湾美術館）、  
「紀南アートウィーク」（川久ミュージアム）、2020年「都市は自然」（SEZON現代美術館）。

絵画、彫刻、映像、インスタレーションなど多彩な手法を用い、自身のバックグラウンドや身近な人達と繋がる社会問題を反映させた作品を制作している。

Sareena Sattapon

タイ出身1992年生まれ。バンコクのシラパコーン大学の「絵画・彫刻・グラフィックアート学部」で学士号と修士号を取得。2021年現在東京芸術大学グローバルアートプラクティス専攻の研究生として東京在住。

タイ、香港、シンガポール、韓国、中国、インドネシア、台湾、ドイツ、ポーランド、ウクライナ、スロバキア、ハンガリー、ノルウェー、日本など多くの国で展覧会、レジデンス、パフォーマンスを行う。

タイの少数民族出身であるという個人的な背景や、日常生活をインスピレーションソースとして、これまでパフォーマンスアート、写真、ビデオ・アート、インスタレーションなど、さまざまな媒体で制作を続けている。

また近年では、アート制作や発表における大量の資源消費や廃棄の懸念から、

「I disappear, Therefore I am」などゼロウェイストをテーマにプロジェクトを行っている。

<https://sareenasattapon.tumblr.com/>

## 大久保紗也 Saya Okubo

2017 京都造形芸術大学大学院芸術専攻ペインティング領域 修了

2015 京都造形芸術大学美術工芸学科油画コース卒業

私の制作は、紙にペンで描かれた自らのドローイングをきっかけとして、平面空間におけるモノや人の存在、実在について探る行為です。日々、無数の平面（ディスプレイ）に囲まれながら生活していると、時に現実と平面世界を混同します。その浅い空間で現象がまるで実際に体験した出来事のように、または、日常で出会うモノや人がふと薄っぺらく感じるように。私たちの認識は、平面と物体との間で揺れ動いている。

紙にペンでドローイングをするとき、その一線は一体何を辿り、意味しているのかと考えます。

はっきりと理解するよりも先に紙に引かれた線は、モチーフの輪郭をたどりながらも身体的なくせや直感的な思い込みによって抽象的な形に変容していく。「真実」や「正確さ」とは常に受け取った個々の中で変容していくものです。ドローイングは、世界を捉えた私の最適解であり、たとえそれがぐちゃぐちゃに消されていても、何度も書き直されようとも、それは私が見たものに対する返答であることに変わりはありません。身体の動きと、その行為に付随する意味の引き受け、または転換が、私の身勝手な線引によって行われる。

絵画は、物体とも平面とも捉えられるあいまいなものです。画面にモチーフを落とし込むとき、輪郭線として表される二次元的な表現と、物質感を伴うフェノメラルな像のうねりなどが絵画の上に混在します。そしてその要素は、認識される中で時に溶解し混同され、時に分離し切断される。

異なるレイヤー同士が合わさり、変容し、転換される場としての絵画。

正確さから切り離され、私の個人的な身体性や記憶とともに放出されたモチーフは、新たな輪郭をもって個々の連想の中に入り込む。存在の輪郭とは、そのようにゆらゆらと曖昧なものなのだと思います。

### 個展

2022 The mirror creak' d from side to side -六本木ヒルズA/Dギャラリー（東京）

We are defenseless. / We are aggressive.（無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち） - 三越コンテンポラリーギャラリー（東京）

2020 They - WAITINGROOM（東京）

2018 a doubtful reply - WAITINGROOM（東京）

### グループ展

2023 TAKEUCHI COLLECTION 『心のレンズ』 - WHAT MUSEUM 2F（東京）,

- SPRING SHOW - WAITINGROOM (東京)
- 2022 SPRING SHOW - WAITINGROOM (東京)
- 2021 ビューイング展 - WAITINGROOM (東京)
- 2020 10TH - WAITINGROOM (東京) ,  
ビューイング展 - WAITINGROOM (東京)
- 2019 大鬼の住む島 - WAITINGROOM (東京)
- 2017 NEWSPACE - WAITINGROOM (東京)  
第4回CAF賞入賞作品展 - 代官山ヒルサイドフォーラム (東京)  
美大生展2017 - SEAZON ART GALLERY (東京)  
京都造形芸術大学大学院 修了展 - Galerie Aube (京都)
- 2016 movement 2016 {1st movement} - ARTZONE (京都)  
SPERT 2016 - Galerie Aube (京都)
- 2015 HERA I AM KUDA × TUNA交流展 - Na pai Art Gallery (台北、台湾)  
HOP2015 - Galerie Aube (京都)  
京都造形芸術大学 卒業展 - 京都造形芸術大学 (京都)

#### アワード

- 2017 第4回CAF賞 白石正美賞

## 大野修 Shu Ohno

1981年生まれ福岡出身。九州産業大学で彫刻表現を学び、東京藝術大学の大学院を修了。  
2012年から2年半ニューヨークで活動後、地元福岡を制作拠点とし、国内外で活動。  
美術における彫刻の流れを汲み取りながら、そこに音楽のカルチャーをミックスさせた視  
点をベースに、内面から沸き起こる「衝動」を重要な要素と捉え、人工的な素材を用い、  
「もの」としての強度を保った、ブリコラージュによる立体作品が特徴。

2004年 - 2006年 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻 修了  
2000年 - 2004年 九州産業大学芸術学部美術学科彫刻 卒業

### 個展

- 2023 「VERSE」 WALL\_alternative (東京)
- 2023 「The Module」 コートヤード HIROO (東京)
- 2022 「Future Age Knowing Emergency」 TRAP (東京)
- 2022 「ブリコラージュ展」 Acht Cafe Gallery (福岡)
- 2019 「UNSTRUCTURED」 usagi と \_ (ニューヨーク)
- 2017 「DOODLES drawing & sculpture」 usagi と \_ (ニューヨーク)
- 2015 「THE DOODLES」 P339 (ニューヨーク)
- 2013 「Standard Distortion」 MaKaRi Japanese Antiques (ニューヨーク)
- 2008 「僕たちの忘れていた宿題」 Frantic Gallery (東京)
- 2006 「スーパーノイズスカルプチャー」 LIVE&MORIS (東京)

## 岡田佑里奈 Yurina Okada

1995年 兵庫県出身

2018年 京都造形芸術大学 卒業

2020年 京都造形芸術大学修士課程 修了

岡田佑里奈の作品は絵画、そして写真の領域を横断しながら次世代にあるべき平面作品の可能性について問いを投げかけます。

草花や同世代の女性を被写体にした写真を転写の技法によって平面化し、そこに現れたクラックに塗料を流し込むというプロセスを経過する彼女の作品は、写真と絵画の双方の工程を含みながらも、しかしそのどちらにも傾かず、それらはむしろ物体の強度と精緻さを手仕事によって丹念に突き詰めるという、どこか工芸的な性格を伴いながら新しい領域を示唆しています。

その固有のマチエールはロシア・アバンギャルドの作家らのような、表面効果への工夫を思い起こさせる一方、岡田が作品について「全ては朽ちていく、という考えがある」と話しているように、そこには岡倉天心が茶湯文化に指摘した「不完全性の美」のような茶湯的、日本的な美学にも通ずる精神があると言えるでしょう。(biscuit gallery)

岡田は、絵画と写真の融合を図っている作家として注目されています。支持体に定着させた半乾きのモデリングペーストに写真を転写し、乾燥する過程で生まれる“クラック”を表現の中に取り込んでいます。偶発的に生まれた“クラック”は「もののあはれ」のような、全てのものは永遠ではない、という無常観を視覚的に強く訴えかけます。(LOKO)

### 展覧会

#### 個展

2022 「DREAM IN OUT」刊行記念特別展 biscuit gallery, 東京

「RAW」LOKO GALLERY, 東京

2021 「Walk in a dream」ARTDYNE Tokyo, 東京

#### 近年のグループ展

2023 「Intersection」銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM, 東京

biscuit gallery second anniversary exhibition 「grid2」biscuit gallery, 東京

EATURED ARTIST 第3弾 「旅館 ろ霞」, 直島

2022 「Spiral Xmas Market 2022~A bright tomorrow, a sparkling future」

表参道 spiral スパイラルガーデン, 東京

biscuit gallery first anniversary exhibition 「grid」biscuit gallery, 東京

- 「exhibition from shu」 biscuit gallery, 東京  
2021 「Up\_01」 銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM, 東京  
「Collectors' Collective vol. 4」 TEZUKAYAMA GALLERY - Viewing Room, 大阪  
「A39 y-Generation VII」 西武渋谷店, 東京  
「Opening ExhibitionI」 biscuit gallery,  
「It's gonna be AWESOME!」 YOD Editions, 大阪

#### 受賞歴

- 2019 The Art of Color DIOR 2019 (入選、展示), フランス  
2018 ART AWARD MARUNOUCHI 2018 (後藤繁雄賞受賞), 東京  
2017 TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD#7 (後藤繁雄賞受賞), 東京

## 加賀美健 Ken Kagami

- 1974 東京生まれ。現在も東京を拠点に制作活動を行う。  
1994 文化服装学院卒業

### 個展

- 2003 「MILK MAN」 タカイシイギャラリー(ビューイングルーム)、東京  
2005 「PENIS」 ギャラリーソラ、東京  
2006 「HOLLOWIEN」 クリンジンガー プロジェクト、ウィーン  
2008 「SNOOPEE」 ザ・ジャーナルギャラリー、ニューヨーク  
2009 「TOY ASS」 タカイシイギャラリー、東京  
2013 「SPICY!!!」 ナディップギャラリー、東京  
2014 「Bronze works 2013 - 2014」 MISAKO & ROSEN、東京  
2016 「DOG」 MISAKO & ROSEN、東京  
2018 「レトロスペクティブ」 パルコミュージアム池袋、東京  
2020 「DOG LOVER」 Meets by NADiff 渋谷PARCO、東京  
「アブストラクション」 MISAKO & ROSEN、東京

### グループ展

- 2004 「10周年記念展」 タカイシイギャラリー、東京  
2005 「BABY SHOWER」 ギャレリニコライワーナー、コペンハーゲン  
「HIDE AND SEEK」 香港アートセンター、香港  
2006 「HELLO KITTY SECRETHOUSE」 Hitec、香港  
2007 「MADLOVE」 アルケン近代美術館、コペンハーゲン  
「4AXY FROM THE COLLECTION OF DR. DICK QUAN」  
アジア・オーストラリアアーツセンター、シドニー  
2008 「DEATH BY BASEL」 フレデリック・スニツァーギャラリー、マイアミ  
「NEW MILLENNIUM」 リズモア・リージョナルギャラリー、リズモア、  
オーストラリア  
「FUTURE TEXTILES」 ブルネル美術館、ロッテルダム、ベルギー  
2011 「Happy Mind - My Pleasure」 MISAKO & ROSEN、東京  
「MUummy I'm SCARRRED!!!」 玉井病院スタジオ、東京  
2012 「HOT」 (加賀美健/トレバー・シミズ2人展) MISAKO & ROSEN、東京  
「代官山アートストリート NOT AUTHORITY BUT ART 常識に尻を向けろ。」  
ヒルサイド・フォーラム、代官山  
「BACK IN 4MINUTES-」 フェイン・クンスト・クルーガー、ドイツ  
「D. F. W. (Down For Whatever) / ARTS LE HAVRE 2012」  
Musée Maritime et Portuaire、ルアーブル、フランス  
2013 「19516 kilometers from Milwaukee or 12126 miles」 MISAKO & ROSEN、東京

- 「The Future is Stupid」(加賀美健、スコット・リーダーと2人展) ザ・グリーン・  
 ギャラリー、ミルウォーキー
- 「アートがあれば 2」東京オペラシティアートギャラリー、東京
- 「グローバル・フォト・コラボレーション・バイ・ヴァイス・マガジン」  
 ディーゼル・アート・ギャラリー、東京
- 2014 「Man & Play curated by XYZ Collective」ブレナン & グリフィン、ニューヨーク  
 「平山昌尚・加賀美健 たたいてかぶってじゃんけんぽん」、  
 ナディッフ・ウィンドーギャラリー、東京
- 「Cool Invitations」XYZ Collective、東京
- 2015 「コメディークンクリート」MISAKO & ROSEN、東京  
 「グリーン」ワット・パイプライン、デトロイト  
 (パピーズパピーによるキュレーション)
- 「コミック・リリーフ」レヴィーデヴァル、ブリュッセル
- 「The Nothing That Is - a drawing show in 5parts」CAM Raleigh、  
 ノースカロライナ
- 2016 「Cob-chan Ken-chan / 土曜物体劇場」ザ・ステーキハウス・ドスコイ、東京  
 「MILK MAN」カフェサンデー、東京
- 「Your Memories are our Future」パレドトーキョー / A クラッシュ AG、  
 チューリッヒ
- 2017 「さよならジュピター」356 ミッション、ロサンゼルス  
 「夏の扉」シェーン・キャンベル・ギャラリー、シカゴ
- 「加賀美健 & COBRA 土曜物体劇場」ナディッフギャラリー、東京
- 「Cool Invitations 4」XYZ Collective、東京
- 「VOILLD Haruhi Ise's Collection」TOKYO CULTUART by BEAMS、東京
- 2018 「トレバー・シミズ & 加賀美健」メンデスウッド DM、サンパウロ  
 「Shibuya Street Museum」渋谷東口ビル ROADCAST × BEAMS、東京
- 2019 「SEXY BEAM 2019 by SSS」CLEAR GALLERY TOKYO、東京  
 クリスチャン・マイヤー、ミュンヘン(キュレーション:トレバー・シミズ)
- 「GOOD GRIEF, CHARLIE BROWN! CELEBRATING SNOOPY AND THE ENDURING POWER OF PE  
 ANUTS」サマセットハウス、エンバンクメント・ギャラリーズ、ロンドン
- 2020 「マスターピース」アンソニー・グリーンニー、ボストン  
 「加賀美健 & COBRA Romantic Comedy」MISAKO & ROSEN、東京
- 「CADAN × ISETAN MEN'S: Spring Takeover」伊勢丹新宿店メンズ館、東京
- 2021 「アブストラクション!」by MISAKO & ROSE、CADAN 有楽町、東京



## 金氏徹平 Teppei Kaneuji

1978年京都府生まれ、2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。

現在、同大学彫刻専攻准教授。日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、インスタレーション、映像、パフォーマンスなど表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探求。

主な個展に、「S.F. (Something Falling/Floating)」(市原湖畔美術館、2022)、「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016)、「四角い液体、メタリックなメモリー」(京都芸術センター、2015)、「Towering Something」(ユールニス現代美術センター、2013)、「溶け出す都市、空白の森」(横浜美術、2009)、チェルフィッチュとのコラボレーションによる「消しゴム森」(金沢21世紀美術館、2020)など国内外での展覧会のほか、舞台美術など様々なジャンルとのコラボレーションも多数。

川人 綾 Aya Kawato

1988 年 奈良県生まれ 京都府在住

学歴

- 2019 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現博士後期課程修了
- 2015 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現修士課程修了
- 2014 パリ国立高等美術学校交換留学
- 2011 京都精華大学芸術学部素材表現学科テキスタイル卒業

個展

- 2023 「project N 89 川人綾」 東京オペラシティアートギャラリー(東京)
- 2022 「川人綾:斜めの領域」 京都市京セラ美術館ザ・トライアングル(京都)
- 2021 「川人綾展 My Grid Paintings: 2016-2021」 日本橋三越本店美術コンテンポラリー  
ギャラリー(東京)
- 「織(Ori)Scopic」 イムラアートギャラリー(京都)
- 2020 「Tell Me What You See」 Pierre-Yves Caër Gallery(パリ、フランス)
- 2019 「Aya Kawato Solo Exhibition」 Aifa(ジュネーヴ、スイス)
- 「Controlled / Uncontrolled」 Pierre-Yves Caër Gallery(パリ、フランス)
- 2018 「川人綾 個展」 イムラアートギャラリー(京都)
- 2017 「C/U\_CCLXXX-CXC\_(w)\_I」 Shonandai My Gallery(東京)

グループ展

- 2023 「Akris x ARTnews JAPAN Reimagining the Values Vol. 2  
『Everything weaving us / 私たちを織りなすすべてのもの』」 Akris Salon(東京)
- 「となりの揺らぎ」 大阪高島屋美術画廊(大阪)
- 「Nippon Mania -Contemporary Art from Japan-」 Kunsthaus Kaufbeuren  
(カウフボイレン、ドイツ)
- 「となりの揺らぎ by Imura Art Gallery」 Cadan 有楽町(東京)
- 2022 「Perception」 Aifa(ヴェルビエ、スイス)
- 「千島土地コレクション 『TIDE -潮流が形になるとき-』」 Kagoo(大阪)
- 2021 「Aifa Gallery Opening」 Aifa(ヴェルビエ、スイス)
- 「Cadon Roppongi Presented by Audi」 六本木ヒルズ Hills café/Space(東京)
- 「Color in Art」 新宿高島屋美術画廊(東京)
- 2020 「先端芸術 2020 / アペラシオン Apparation -先端芸術表現科 20 周年&伊藤俊治教授  
退任記念展-」 東京藝術大学大学美術館陳列館(東京)
- 「ブレイク前夜 in 代官山ヒルサイドテラス -時代を突っ走れ!小山登美夫  
セレクションのアーティスト 38 人-」 代官山ヒルサイドテラス(東京)
- 「Crossing Paintings -交差する絵画-」 イムラアートギャラリー(京都)
- 「数寄景 / New View -日本を継ぐ、現代アートのいま-」 日本橋三越本店(東京)、  
三菱地所アルティウム、福岡三越(福岡)
- 2019 「数寄景 / New View -日本を継ぐ、現代アートのいま-」 阪急うめだギャラリー  
(大阪)
- 「Drawing: Manner」 Takuro Someya Contemporary Art(東京)
- 2018 「東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展 2018」 東京藝術大学大学美術館(東京)

- 「Kyoto Nippon Festival 2018」北野天満宮、ジェイアール京都伊勢丹(京都)
- 2017 「Collect 2」Micheko Galerie(ミュンヘン、ドイツ)  
「2074、夢の世界」FIAC 2017 / Grand Palais(パリ、フランス)、  
東京藝術大学大学美術館(東京)  
「Small Works -Selected by Masaharu Makuuchi / Ex-chamber Museum-」  
アートスペースモルゲンロート(東京)
- 2016 「第 13 回群馬青年ビエンナーレ」群馬県立近代美術館(群馬)  
「Shonandai Project Will」Shonandai My Gallery(東京)  
「Atlas 2016」東京藝術大学取手校地(茨城)  
「Independent 2016 Tagboat Art Fes」ヒューリックホール(東京)  
「第 11 回 Tagboat Award 入選者グループ展」  
世田谷ものづくり学校 Iid ギャラリー(東京)  
「第 33 回三菱商事アート・ゲート・プログラム」Eye of Gyre(東京)  
「第 30 回三菱商事アート・ゲート・プログラム」Eye of Gyre(東京)
- 2015 「第 10 回藝大アートプラザ大賞展」東京藝術大学芸大美術館ミュージアムショッ  
(東京)  
「Tokyo Design Week 2015 100 人展」明治神宮外苑絵画館前(東京)  
「Sicf 16」スパイラルホール(東京)  
「第 63 回東京藝術大学卒業・修了作品展」東京藝術大学(東京)
- 2014 「Wip 展 2014」東京藝術大学取手校地(茨城)  
「You' ve gone too far」パリ国立高等美術学校 Atelier Vilmouth  
(パリ、フランス)
- 2012 「事前審査展 2012」東京藝術大学取手校地(茨城)  
「第 16 回フラッグアート展 in 岐阜」岐阜市神田町通り(岐阜)
- 2011 「Atlas 2011」東京藝術大学取手校地(茨城)  
「卒業制作展」京都市美術館(京都)  
「長谷川祐子+16 人のアンサンブル」京都精華大学ギャラリーフロール(京都)
- 2010 「わくわく京都プロジェクト」元立誠小学校(京都)  
「9」Shin-bi(京都)
- 2008 「1968+40 Mode Make-up」建仁寺(京都)

#### コレクション

- 2022 島土地株式会社(大阪)
- 2018 東京藝術大学大学美術館(東京)
- 2017 シャネル株式会社(東京)

#### コミッションワーク

- 2022 Auberge Tebiro 1732(奄美大島)
- 2021 ロンシャン ウィーン(ウィーン、オーストリア)
- 2020 フェイスブック・ジャパン(東京)  
ザ・ホテル青龍(京都)
- 2019 ロンシャン ラメゾン銀座(東京)  
京都悠洛ホテル M ギャラリーby ソフィテル(京都)

#### 受賞歴

- 2018 「野村美術賞 2018」公益財団法人野村財団(東京)
- 2017 「三菱商事アート・ゲート・プログラム 2017 年度奨学生」三菱商事(東京)  
「2074、夢の世界グランプリ」コルベール委員会(パリ、フランス)、東京藝術大学

- (東京)  
 「第 13 回群馬青年ビエンナーレ入選」 群馬県立近代美術館(群馬)  
 2016 「日本文化藝術奨学金 2016 年度奨学生」 公益財団法人日本文化藝術財団(東京)  
 「Independent 2016 Tagboat Art Fes、Shonandai MY Gallery 賞、  
 Katsumi Yamato Gallery 賞」 Tagboat(東京)  
 「第 11 回 Tagboat Award 審査員特別賞小山登美夫賞」 Tagboat(東京)  
 「第 33 回三菱商事アート・ゲート・プログラム入選」 三菱商事(東京)  
 「第 30 回三菱商事アート・ゲート・プログラム入選」 三菱商事(東京)  
 2015 「第 10 回藝大アートプラザ大賞展入選」 東京藝術大学(東京)  
 2012 「第 16 回フラッグアート展 in 岐阜入選」 岐阜フラッグアート展実行委員会(岐阜)

## メディア

- 2023 [展覧会図録]  
 「Nippon Mania -Contemporary art from Japan-」 Kunsthaus Kaufbeuren  
 (カウフボイレン、ドイツ)  
[「川人綾:斜めの領域」](#) 京都市京セラ美術館ザ・トライアングル(京都)
- [書籍]  
 菅野優香「クィア・シネマ -世界と時間に別の仕方存在するために-」  
 フィルムアート社、表紙
- [雑誌]  
[電子情報通信学会 通信ソサイエティマガジン B-plus](#) (春)  
 「脳をくすぐるアート」
- [ウェブ]  
[ARTnews Japan](#) (8月3日)「布や編み込むことが内包する人間性と土着性を読み解く  
 -Akris x ARTnews JAPAN の展覧会第 2 弾が開催」  
[Herper's BAZAAR](#) (3月17日)「気鋭ギャラリーが注目する、アート界の最前線を突  
 き進む女性作家たち」  
[Meet Your Art](#) (2月26日)「Pick Up Artist 川人綾」
- 2022 [雑誌]  
 家庭画報(12月)「現代アート、才気発掘」  
 京都市京セラ美術館メンバーシップ Members News(1月)  
 「展覧会ができるまでの3 つの STUDY『川人綾:斜めの領域』展」  
 現代詩手帖(1月)表紙
- [テレビ]  
[NHK WORLD-JAPAN Core Kyoto](#) (5月12日)  
 「Art Frontier: Creators Forge New Paths into the Future」
- [ウェブ]  
 The New York Times Style Magazine: Japan(2月25日)  
 「修復されたフェルメール絵画、上野リチの仕事、ズレが生む視覚の世界  
 今週見るべきアート展」
- 2021 [テレビ]

[毎日放送 京都知新](#) (4月4日)「現代美術家・川人綾」

[ウェブ]

[婦人画報](#) (11月5日)「川人綾|美しすぎるアナログなイリュージョン『グリッドペインティング展』開催」

[美術手帖](#) (6月29日)「拵から感じるズレの美しさを、視覚を惑わすグリッドペインティングに表現。川人綾インタビュー」

2019 [展覧会図録]

「数寄景 / New View -日本を継ぐ、現代アートのいま-」数寄景展実行委員会

[雑誌]

美術の窓(5月)「評論家・学芸員が選ぶ注目の新人14」

月刊美術(3月)「アートフェア東京2019 注目ブースのアーティスト・ファイル」

[テレビ]

NHK Eテレ 日曜美術館(5月19日)「エッセジャー無限性の彼方へ」

2018 [雑誌]

I'm home. (7月)「Galleries 一期一会の出会いを求め、実力派ギャラリーへ」

フィガロジャポン(3月)「アール・ドゥ・ヴィーヴルの夢を紡ぐ天使たち。」

エル・ジャポン(2月)「SF小説からアートへ!ユニークな文化プロジェクト」

月刊アートコレクターズ(1月)「フランスの国際アートフェアFIACに藝大生が挑戦!」

装苑(1月)「コルベール委員会「Rêver 2074」で考える、自分の夢のかなえ方」

[ウェブ]

[CNN style](#) (11月5日)「Contemporary Japanese art looks to historical craftsmanship for inspiration」

2017 [展覧会図録]

「2074、夢の世界」コルベール委員会 (Paris, France), 東京藝術大学 (Tokyo, Japan)

「第13回 群馬青年ビエンナーレ」群馬県立近代美術館(群馬)

[雑誌]

CHANEL News(冬)「コルベール委員会『2074、夢の世界』プロジェクト」

Artpress 2074、夢の世界(12月)「Aya Kawato 織合い(Oriai)」

月刊アートコレクターズ(8月)「フランスのラグジュアリー・ブランドによるメセナ団体、藝大生を支援。」

藝大美術館で藝大生50組による『2074、夢の世界』展を開催。」

CHANEL News(夏)「コルベール委員会『2074、夢の世界』

プロジェクト内覧会・表彰式」

美術の窓(6月)「画廊が選ぶ注目の新人91」

美術屋・百兵衛(春)「第8回創造する伝統賞、平成28年度日本文化藝術奨学金」

[テレビ]

NHK BS1 国際報道2017(11月2日)

[BSフジ ブレイク前夜～次世代の芸術家たち～](#) (2月21日)「#47 川人綾」

## GORILLA PARK ゴリラパーク

### 経歴

- 1998年 埼玉県生まれ  
2021年 武蔵野美術大学 造形学部 彫刻学科 卒業  
2023年 東京藝術大学 大学院美術研究科 彫刻専攻 修士課程 修了

### 近年のおもな展覧会歴

#### 【個展】

- 2023年 「万華鏡」 (biscuit gallery、東京)  
2021年 「宇宙人の幽霊に会ってみたい」 (GALLERY TAGA 2、東京)

#### 【グループ展】

- 2023年 「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2023」 (行幸地下ギャラリー、東京)  
「SO」 (HIRO OKAMOTO、東京)  
「第71回東京藝術大学卒業・修了作品展」 (東京藝術大学、東京)  
2022年 「ドローイングー身体の軌跡」 (UENO ART GALLERY、東京)  
「1998」 (GALLERY ROOM・A、東京)  
2021年 「彫刻と家」 (旧平櫛田中邸アトリエ、東京)  
「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021」  
(丸の内オアゾ〇〇 (おお) 広場、東京)  
「令和二年度武蔵野美術大学・修了制作展」  
(武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス、東京)  
2020年 「CAF賞2020入選作品展覧会」  
(代官山ヒルサイドテラスF棟 ヒルサイドフォーラム、東京)  
「うわごと」 (KOGANEI ART SPOT シャトー、東京)  
「ロスタイム」 (GALLERY 33、東京)

### 受賞歴

- 2023年 卒業・修了作品買上  
ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2023 OCA TOKYO賞  
2021年 ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021 長谷川新賞  
2020年 CAF2020入選作品展覧会 海外渡航費授与

地球上にある特定のイメージを現実の物質として再構築している。人間が認知することが出来ず、見たことない物体を、普遍的な素材を使い、人の手で創ろうと模索する。

高山夏希 Natsuki Takayama

(1990-) 東京生まれ

平面作品(絵画)を中心に、現代の情報技術によって薄れてしまった事物にたいする感性を問題意識にし、粒子の感触を確かめるように人間と物質の関係の再考を試み、人・動物・モノ・環境などが一体性をもった自然観を表現している。

また、インスタレーション、セラミック、彫刻など様々な媒体による作品の制作、発表を行ってきた。

主な展覧会に、「気色の目」(奈義町現代美術館、2023年)、「房総里山芸術祭いちほらアート×ミックス2020+「conjunction-名詞から接続詞へ-」」(白鳥保育所/千葉、2021年)、「VOCA展2020現代美術の野望-新しい平面の作家たち-」(上野の森美術館、2020年)など展示に参加している。



## 東城信之介 Shinnosuke Tojo

1978年長野県生まれ、2004年東京造形大学造形学部美術学科比較造形卒業、05年同大学研究生修了。

自身の心象風景や無意識に見えてしまう虚像を、金属板や工業製品の表面に大小の傷やサビなどを施すことで具現化している。SHINaNOBOYaは幼少期のイマジナリーフレンドで自身の記憶の中で初めて作った造形物であり2018に実家で発掘された。それ以降欠かせないモチーフの一つとなり素材の制限が無くなるきっかけにもなった。

### 展覧会歴

#### 近年の主な個展

- 2024 BOTTOM OF THE CANDY Louisa art center/台北
- 2023 LUNCHBOXx2 養心藝術/台中
- 2023 冷蔵庫は□かった。 parcel/馬喰町
- 2022 Doria Parade GUCCI 並木/銀座
- 2021 10.93827160493827 Fomo/台北
- 2020 すずめ色の晚餐 蔦屋書店(ATRIUM)/銀座six
- 2020 口から入って届くまで 小海町高原美術館/長野

#### 近年の主なグループ展

- 2023 WALL SELECTION vol.1 WALL\_alternative/西麻布
- 2023 Meet Your Art Festival 天王洲
- 2023 MADSPRING Kanda&Oliveira/西船橋
- 2023 ソノアイダ/有楽町
- 2022 瀬戸内国際芸術祭 小豆島ハウス/香川
- 2022 VOCA30YearsStory 第一生命ロビー/有楽町
- 2021 The Vision of Shade AURA+/上海
- 2020 絵の旅vol.5 MA2Gallery/恵比寿
- 2019 VOCA 上野の森美術館/上野
- 2019 対流風景ConvectiveScenery 広州53美術館/中国

#### 主な受賞歴

- 2019 VOCA26グランプリ受賞
- 2017 SICF18spiralグランプリ受賞
- 2005 第三回山本鼎版画展 佳賞受賞

那須佐和子 Sawako Nasu

1996年 東京都生まれ

2021年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

2023年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画第一研究室 修了

## 長谷川彰宏 Akihiro Hasegawa

1997年三重県出身。

天台宗系の寺院に生まれ。

2009年に得度し、2019年には天台真盛宗総本山の西教寺にて四度加行を満行しています。

2016年に東京藝術大学デザイン科に入学し、2020年より同大学院美術研究科デザイン専攻に在籍しながらアーティスト活動を続けています。

感情、思想、身体、そして生命の存在に対して俯瞰した視点を持つ長谷川の作品群は、彼の根幹をなす仏教思想から得た独自の姿勢が垣間見え、死生観や人間の存在そのものを問いかけてきます。

幼少期から“光”に視覚的にも思想的にも強く惹かれてきたという長谷川は、その原体験を作品に落とし込んで表現しています。

## 藤倉麻子 Asako Fujikura

ARTIST WEBSITE

<https://www.afujikura.com/>

藤倉 麻子

1992 埼玉県生まれ  
2016 東京外国語大学言語文化学部ペルシア語専攻 卒業  
2018 東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻 修了  
現在、東京を拠点に活動中

### 個展

2021 「Paradise for Free」 CALM & PUNK GALLERY (東京)  
2018 「エマージェンシーズ! 035 藤倉麻子《群生地放送》」  
NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東京)  
「はげ山と閑散都市の原始/functional, primitive」 art space kimura ASK?P  
(東京)

### 主なグループ展

2023 「アーバン山水β」 kudan house (東京)  
「MOTアニュアル2023 シナジー、創造と生成のあいだ」 東京都現代美術館 (東京)  
[Unexistence Gallery (原田郁/平 田尚也/藤倉麻子/やんツー) として参加]  
「新しい嘘」 アート/空家 二人 (東京) [藤倉麻子+大村高広として参加]  
「Biotope Circles 一生きるものたちの息づかいが聴こえる場所—」  
シンボルプロムナード公園内 石と光の広場 (東京)  
「エナジー・イン・ルーラル」 [展覧会第二期] 国際芸術センター青森  
展示棟ギャラリーA・B (青森)  
「SPRING SHOW」 WAITINGROOM (東京)  
「アーバン山水」 kudan house (東京)  
2022 「NMWA日本委員会主催展覧会『New Worlds』」 M5 GALLERY (東京)  
「拡散距離 / コンヴァートの作法 / 可変太陽」 日本橋三越本店  
三越コンテンポラリーギャラリー (東京)  
2021 「Encounters in Parallel」 ANB Tokyo (東京)  
「余の光 / Light of My World」 旧銀鈴ビル (京都)  
「3331ART FAIR 野外美術展 のけもの」 アーツ千代田3331 (東京)  
「Digital Art Festival Taipei」 オンライン  
「CULTURE GATE to JAPAN」 東京国際クルーズターミナル (東京)  
「多層世界の中のもうひとつのミュージアム——ハイパー ICC へようこそ」  
NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東京)  
「FLUSH—水に流せば—」 EUKARYOTE (東京)  
「NIT005」 アート/空家 二人 (東京)  
「アーティストによるポスター展」 アート/空家 二人 (東京)  
2020 「土字旁・人字邊 Close to Nature, Next to Humanity」 台東美術館  
(台東、台湾)  
「LUMINE meets ART AWARD 2019-2020 The Award Winner's Exhibition」

- ルミネ新宿（東京）
- 2019 「来るべき世界：科学技術、AI と人間性」 青山学院大学（東京）  
「PHENOMENON:RGB」 ラフォーレミュージアム原宿（東京）
- 2018 「Artists in FAS 2018 入選アーティストによる成果発表展」 藤沢市アートスペース（神奈川）  
「第19回グラフィック『1\_WALL』展」 ガーディアン・ガーデン（東京）  
「MEC Award 2018 (Media Explorer Challenge Award 2018) 入選作品展」  
SKIPシティビジュアルプラザ 映像ミュージアム（埼玉）  
「MEDIA PRACTICE 17-18」 BankART Studio NYK（神奈川）  
「東京藝術大学ゲーム学科（仮）展」 東京藝術大学大学美術館陳列館（東京）

#### 上映

- 2022 「KAATアトリウム映像プロジェクト vol.21 | 藤倉 麻子」 KAAT神奈川芸術劇場（神奈川）
- 2019 「TOKYO\_ANIMA!\_2019」 国立新美術館（東京）
- 2018 「ヤング・パースペクティブ 2018」 イメージフォーラム（東京）

#### アワード&フェローシップ

- 2022 令和4年度メディア芸術クリエイター育成支援事業  
「国内クリエイター創作支援プログラム」（大村高広と協働）
- 2020 LUMINE meets ART AWARD 2019-2020 グランプリ
- 2019 第22回文化庁メディア芸術祭 審査委員会推薦作品
- 2018 ヤング・パースペクティブ2018  
Artists in FAS 2018 入選  
第19回グラフィック「1\_WALL」ファイナリスト  
北九州デジタルクリエイターコンテスト2018 [KDCC2018] 小林茂審査員賞  
MEC Award 2018 (Media Explorer Challenge Award 2018)  
ファイナリスト アーティスト・イン・レジデンス
- 2023 国際芸術センター青森（青森）
- 2022 PROJECT ATAMI（静岡）
- 2021 BnA Alter Museum（京都）
- 2018 Artists in FAS 2018（神奈川）

#### アートフェア

- 2023 「NADA Miami」 Ice Palace Studios、マイアミ、アメリカ [グループ展形式]  
「アートフェア東京 2023」 東京国際フォーラム（東京） [個展形式]

#### 展覧会カタログ

『「アーバン山水」展カタログ』 山水東京、2023 年 12 月

アーティストウェブサイト

<https://www.afujikura.com/>

## 布施琳太郎 Rintaro Fuse

1994年 東京都生まれ。

急速に発達するメディアによって変化する人間の意識や行動、それによる社会と人の距離やコミュニケーションのあり方など、可視化されない、しかし確実に存在する問題意識や違和感を感じ取り、同世代のアーティストや詩人、音楽家、デザイナーなどと協働して巧みに顕在化する活動が高く評価され、作品制作の他、展覧会企画、批評など他分野において意欲的な活動を行なっています。

主な個展に、「すべて最初のラブソング」（2021／東京・The 5th Floor）、「イヴの肉屋」（2022／東京・SNOW Contemporary）、参加企画展に「ニュー・フラットランド」（2021／NTTインターコミュニケーションセンター [ICC] ）、「新しい成長の提起」（2021／東京藝術大学美術館）、「時を超えるイヴ・クラインの想像力」（2022／金沢21世紀美術館）、展覧会企画に「隔離式濃厚接触室」（2020／ウェブページ）、「惑星ザムザ」（2022／東京・小高製本工業跡地）など。

## 松岡柚歩 Yuzuho Matsuoka

1996年 兵庫県生まれ。

2021年 京都芸術大学大学院修士課程芸術研究科美術工芸領域油画専攻 修了。

現在は京都を拠点として制作。

正方形のキャンバスにアクリル絵具で格子柄を描き、その上から抽象的な形状をした色面を部分的に盛り付けることで、人の視覚の働きにアプローチする絵画作品を制作している。図柄や彩度と明度の高さから一見ポップなイメージを持つ作品は、重なりが作り出すレイヤーによって立体作品のような印象を持ちつつ、鑑賞者と絵画の関係性について再考させている。

### 展覧会歴

主な個展に、「狭めた視界」（京都蔦屋書店・京都）、「冗長な月」（CANDYBAR GALLERY・京都 2023）、「針の穴から天を覗く」（FOAM CONTEMPORARY・東京 2023）「outline」（WATOWA GALLERY/elephant studio、東京、2022）、「ピースとホール」（haku kyoto、2022）。主なグループ展に「DAWN-EXPOSITION 2021.04-」（銀座蔦屋書店、東京、2021）。「ARTISTS' FAIR KYOTO 2022」（京都文化博物館別館・京都、2022）、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021」（丸ビル1階マルキューブ、東京、2021）、「シエル美術賞2020」（国立新美術館、東京、2020）

### 受賞歴

「Pommery Prize Kyoto 2023」優秀賞、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021」Proactive賞（2021）、「シエル美術賞2020」学生特別賞（2020）など

丸山太郎 Taro Maruyama

1991 神奈川県生まれ

2021 東京芸術大学大学院博士後期課程彫刻専攻修了

主なグループ展

2018 「アートアワードトーキョー丸の内2018」 新丸ビル/東京

2021 「TAION」 青山スパイラル/東京

2022 「石井佑果・丸山太郎 ENCOUNTER」 三越コンテンポラリーギャラリー/日本橋三越、  
東京

「Under Current」 Powerlong Museum/上海、中国

2023 「出張モノクローズ#3」 GASBON METABOLISM/山梨

主な個展

2023 「魔法のセーブポイント」 TAKU SOMETANIGALLERY/東京



## 南谷理加 Rika Minamitani

1998年神奈川県生まれ。

2021年に多摩美術大学絵画学科油画専攻を卒業し、2023年に東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻を修了。

現在は茨城を拠点に活動しています。

主な受賞歴として、2022年にCAF賞入選、2023年にART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 小山登美夫賞受賞。

南谷理加は作品制作を通して、絵画というメディアの可能性と制限とを行き来するような、イメージの実験を追求します。南谷の絵画は、対照的な色の組み合わせや、均一に塗られた色面と筆致の際立つ箇所、モチーフの省略化とディテール描写といった、キャンバス上の様々なコントラストによって構築されます。それにより描かれる登場人物や動物は、豊かな表情と独特のジェスチャーで躍動感をもって画面に立ち現れます。

### 個展

- 2023 「黙劇」 小山登美夫ギャラリー六本木
- 2022 「ブレイン・ウォッシュ」 Biscuit Gallery/東京
- 2021 「WONDERLANDIII」 Bambinart Gallery/東京
- 2021 「WONDERLANDII」 Bambinart Gallery/東京
- 2020 「WONDERLAND」 Bambinart Gallery/東京

### グループ展

- 2023 「アートアワードトーキョー丸の内2023」 行幸地下ギャラリー、東京
- 2023 「6drawings」 Biscuit Gallery/東京
- 2022 「CAF賞2022入選作品展」 代官山ヒルサイドテラス F棟 ヒルサイドフォーラム/東京

### 受賞

- アートアワード東京丸の内 2023 小山登美夫賞
- FACE展 2021 入賞
- CAF賞 2022 入選

## 谷敷謙 Ken Yashiki

谷敷謙は、木目込みという日本固有のテキスタイルの技術をペインティングの手法として捉え直し、新しい絵画表現の実践をしています。

江戸時代にルーツを持ち、寺社建築の端材を人形に用いることで生まれた木目込みを、谷敷は自身の経験をベースにしながら再解釈し、使用する素材を古着や廃材に絞り、元々の持ち主に由来する身体性、時間、生の感覚といった有機的な要素を汲み取りながら、祈りや願いを込めるという木目込みや伝統工芸に特有の文化や価値を、絵画を通して現代へとリプレイスしています。

## やましたあつこ Yamashita Atsuko

1993 愛知県生まれ

2018 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

### パブリックコレクション

愛知県美術館「二人だけの夜」

愛知県美術館「ままごと」

### 受賞歴

第35回ホルベインスカラシッパ奨学生

群馬青年ビエンナーレ2019 入選

シェル美術賞2018 藪前知子審査員賞

ワンダーシード2018 入選

第4回CAF賞 入選

群馬青年ビエンナーレ2017 奨励賞

ターナーアワード2016 優秀賞

ターナーアワード2015 入選

ビジュアルアート大賞 柳沼信行賞

レジデンス

FUWARI NO MORI ART FOREST

### 主な展示

2023 やましたあつこ/丸山太郎2人展「あつことタロー・ダブルホライズン」

TAKU SOMETANI GALLERY

個展「まなざしを綴る」Tokyo International Gallery

グループ展「ON PAPER」TAKU SOMETANI GALLERY

2022 個展「dendrophilia」TAKU SOMETANI GALLERY

アートチャリティー「Art Can Save Us」

やましたあつこ/丸山太郎2人展「あつことタロー・リフトオフ」Gallery A8T

アーティストインレジデンス「旅立ちのファンファーレ」ふわりの森

MEET YOUR ART FESTIVAL 2022「New Soil」恵比寿ガーデンプレイス

グループ展「ON PAPER」TAKU SOMETANI GALLERY

個展「王国のベール」GINZA SIX 銀座蔦屋アートウォール

グループ展「式畫廊開幕首展」SAN GALLERY 台湾

グループ展「" Ampersand" 旧图像世的挽歌」東京画廊+BTAP | 北京 中国

2021 個展「once upon a time」NADiff A/P/A/R/T

グループ展「TAION when we talk about our world」 Spiral Garden

グループ展「交差点」 Bunkamura Gallery

新作展示 GINZA SIX 銀座蔦屋DELTA

個展「花びらのワルツ」 biscuit gallery

画集出版記念展示 渋谷蔦屋

- 2020 個展「パン屋と絵#11 やましたあつこ」ドイツパンの店タンネ  
グループ展「燦三と照りつける太陽で、あつさ加わり体調を崩しがちな季節ですが、規則正しく健やか奈日々をお過ごしください。展」西武渋谷  
愛知県美術館 2020年第3期コレクション展  
個展「Utopia」 TAKU SOMETANI GALLERY
- 2019 やましたあつこと三瓶玲奈「絵画」 TAKU SOMETANI GALLERY  
個展「HER」 TAKU SOMETANI GALLERY  
青山道アートフェア additional gallery  
個展「Dis-appear in Light」 中目黒epulor  
個展「君の名前で僕を呼んで」 MAKII MASARU FINE ARTS  
群馬青年ビエンナーレ2019 群馬県立近代美術館
- 2018 シェル美術賞展 国立新美術館  
個展「In the flower garden」 MAKII MASARU FINE ARTS  
個展「lovingly yours」 京都町家  
チャリティーオークション「3.11チャリティーオークション@3331 ART FAIR 2018」  
ワンダーシード2018 トーキョーアーツアンドスペース
- 2017 第4回CAF賞 代官山ヒルサイドフォーラム  
芸大アーツイン丸の内 新丸ビル  
TRANS ARTS TOKYO  
個展「I cried, because I love you.」 新宿眼科画廊  
群馬青年ビエンナーレ 2017 群馬近代美術館  
ターナーアワード 2016 ターナーギャラリー  
無二無二 3331アーツ千代田
- 2015 TETSUSON 3331アーツ千代田

## 山田康平 Kohei YAMADA

1997 大阪府生まれ  
2020 武蔵野美術大学油絵学科油絵専攻卒業  
2022 京都芸術大学修士課程美術工芸領域油画専攻修了  
東京在住

### 個展

2023 「Strikethrough」 タカ・イシイギャラリー（東京）  
2022 「それを隠すように」 biscuit gallery（東京）  
MtK Contemporary Art（京都）  
京都岡崎 蔦屋書店 ギャラリースペース（京都）  
2022 代官山ヒルサイドテラスアネックス A（東京）  
2020 「のぼり、おりる」 ギャラリー美の舎（東京）

### 主なグループ展

2024 「Landing Point」 ARARIO GALLERY SEOUL（韓国）  
2023 「マイマップでラインとシェイプを描画する」 タカ・イシイギャラリー 前橋  
（群馬）  
2022 「Polyphony」 ARARIO GALLERY SHANGHAI（中国）  
「nine colors XVI」 西武渋谷店（東京）  
2021 「biscuit gallery Opening Exhibition II」 biscuit gallery（東京）  
「RISING STAR」 銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM（東京）  
「Up\_01」 銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM（東京）

### 受賞

2020 「CAF 賞 2020」 入選  
「FACE2020 損保ジャパン日本興亜美術賞展」 入選  
2019 「学生選抜展」 奨励賞  
「kaya art competition」 入選

## 山田美優 Miyu Yamada

1994年東京都生まれ。青山学院大学卒業。

時代や社会の流れの狭間に生きる者を投影した作品を制作する。現代人の持つ独特の浮遊感、つかみどころのなさといったものを捉え、都市と自然の中間的存在として可変性の高い素材である砂を用い、定まらないことや曖昧さを表現する。

時代や社会の流れの狭間に生きる者を投影した作品を制作する。現代人の持つ独特の浮遊感、つかみどころのなさといったものを捉え、都市と自然の中間的存在として砂状の素材を用いている。

ドローイングを元に線を盛り上げて描くシリーズとパステルを用いた作品を展開する。登場する生きものたちは、目まぐるしく変化する時代と交錯した社会を見つめる自分自身であると同時に、鑑賞者自身として描き出される。(biscuit gallery)

### 展覧会歴

- 2023 Expression vol.2(長亭ギャラリー, 東京)
- 2022 「CROSSROADS展」(WHATCAFE, 東京, biscuit galleyより出品)  
エピソードone 次世代アーティスト16人展Vol.1(阪急うめだ本店, 大阪)  
nine colors XVI(西武渋谷店, 東京)  
MEET YOUR ART FESTIVAL 2022'New Soil' 出展(恵比寿ガーデンプレイス, 東京)  
nine colors XVI(阪急うめだ本店, 東京)  
KINDA MOOD RIGHT NOW. (YOD TOKYO feat. GALLERIA AVENUE)  
YOU DO YOU(whimsy works, 台湾)  
シブヤスタイルvol.16(西武渋谷店, 東京)  
「Joueney」(HIRO OKAMOTO, 東京)個展
- 2021 「Twins」(MEDEL GALLERY SHU, 東京)個展  
シブヤスタイルvo.15(西武渋谷店, 東京)
- 2020 「生とその過程/Before Birth」(MEDEL GALLERY SHU, 東京)個展  
「明日へ」(中目黒蔦屋書店, 東京)個展  
シブヤスタイルvo.14(西武渋谷店, 東京)
- 2021 「Twins」(MEDEL GALLERY SHU, 東京)個展  
シブヤスタイルvo.15(西武渋谷店, 東京)

## 油野愛子 Aiko Yuno

1993年大阪府生まれ。

2018年京都芸術大学大学院美術専攻総合造形領域修了。

2017年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）短期留学。

2018年関渡美術館交換派遣研究員レジデンスプログラム（台湾）に参加しました。

個展に、「When I' m small / 小さかったころ」（小山登美夫ギャラリー、2021年）、  
主なグループ展として、「CAF賞入選作品展覧会」（代官山ヒルサイドフォーラム、2017  
年）、「群馬青年ビエンナーレ」（2019年）、「Kyoto Perspective」（ANB Tokyo、2021  
年）、「油野愛子、顧剣亨『HOW TO RECORD THE PAST, HOW TO LET GO THE PAST? どうやっ  
て過去を手放そうか。』」（CADAN 有楽町、2023年）などがあります。

幼年期と青年期の間に横たわるギャップ、感情をベースに、金属や樹脂、陶芸、アクリル絵  
具など多様な技術と素材を使用し、絵画や立体など幅広いメディアで制作を行っています。

### 個展

2021 「When I' m small / 小さかったころ」小山登美夫ギャラリー、東京

### グループ展

- 2023 「young okazaki vol.3」 MtK Contemporary Art、京都  
油野愛子、顧剣亨「HOW TO RECORD THE PAST, HOW TO LET GO THE PAST?  
どうやって過去を手放そうか。」CADAN 有楽町、東京  
「Substance, Screen」 FINCH ARTS、京都  
THE BRIDGE、大阪
- 2022 「In the Flow」松栄堂 薫習館、京都  
「POLYPHONY」 Arario Gallery Shanghai、上海、中国
- 2021 「MEET YOUR ART at Daimaru Umeda」大丸梅田店、大阪  
「Contemporary Art Fair at HANKYU LUX」阪急うめだ本店、大阪  
「集合／開放 2nd Anniversary BnA Alter Museum」 BnA Alter Museum、京都  
「からだ、その他 Body, et cetera」 ANA InterContinental Tokyo、東京  
「FUN LIFE with ART / MEET YOUR ART × OCEANS」 RIVERSIDE CLUB、東京  
「Kyoto Perspective」 ANB Tokyo、東京  
「ARTISTS' FAIR KYOTO」京都文化博物館 別館、京都新聞ビル 印刷工場跡、京都
- 2019 「群馬青年ビエンナーレ」群馬県立近代美術館、高崎  
BnA Alter Museum、京都  
「ARTISTS' FAIR KYOTO」京都文化博物館 別館、京都新聞ビル 印刷工場跡、京都
- 2018 「KYOTO ART LOUNGE」ホテルアンテルーム京都、京都  
「アートプロジェクト高崎-都市アートの光-」高崎、群馬
- 2017 「Ultra Girls Collection」ホテル アンテルーム京都、京都  
「DEP / ART Kyoto」京都高島屋ショーウィンドウ展示、京都

## 受賞歴

2019 群馬青年ビエンナーレ、入選

2017 CAF賞、入選

2016 ULTRA AWARD 2016 NEW ORGANICS、入選